

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年2月14日】第113号



ふくのリレー

農大稲花小にはいわゆるPTAはありません。しかし、保護者の皆様には東京農業大学稲花小学校教育後援会の会員として、学校の活動を支援していただいています。この後援会組織は、小学校から東京農業大学大学までそれぞれの学校にあるものですが、連携しながらも学校ごとに無理のない活動をしています。

さて、新型コロナウイルスがまん延して活動が制限されている中、本校教育後援会によって第1回制服リユース「ふくのリレー」が企画されました。まだきれいなままで小さくなってしまった制服のジャケット、シャツ、ハーフパンツやスカート、制靴などを、下級生に譲ろうとするものです。清潔にクリーニングされた制服他が集まり、希望者に服＝福がリレーされていきました。SDGsについて学ぶ本校の子どもたちにもぴったりの企画で、お世話をしてくださった教育後援会の皆様に感謝します。

糸車がやってきた

1年生の国語では、「たぬきのいとぐるま」というお話を勉強しています。糸をつむぐおばあさんといたずらな狸が登場するのですが、子どもたちはおばあさんの気持ちや、狸の気持ちを一生懸命考えながら読んでいきます。このお話のもう一つの主役は、きーからからと音を立てて回す糸車です。

本物の糸車を子どもたちに見せたいと思い、東京農業大学「食と農」の博物館に問い合わせたところ、「あります！ どうぞ！」といううれしいお返事です。すぐに、糸車をお借りできることになりました。事務職員が車で受け取りにいき、その日のうちに、農大稲花小へ。新潟県の農家から博物館に寄贈されたものようです。昔の人々が、自分で糸をつむぎ、布を織り、着物を仕立てていたことを、改めて実感しながら糸車を回すことができます。

翌日からさっそく、1年生の国語の授業に、糸車が登場しました。先生に見守られながら、少しでも糸車を回してみた子どもたち、おばあさんの気持ち、狸の気持ちに寄り添えたでしょうか。

雛飾り

農大稲花小では毎年、立春が過ぎたころになると雛人形を飾っています。雛人形を出したり片づけたりするのは、実際のところ結構面倒なのですが、教職員の協力を得て、今年もきれいに飾られました。子どもたちが喜んで見てくれるのは、うれしいものです。いつもなら、第2回入学者

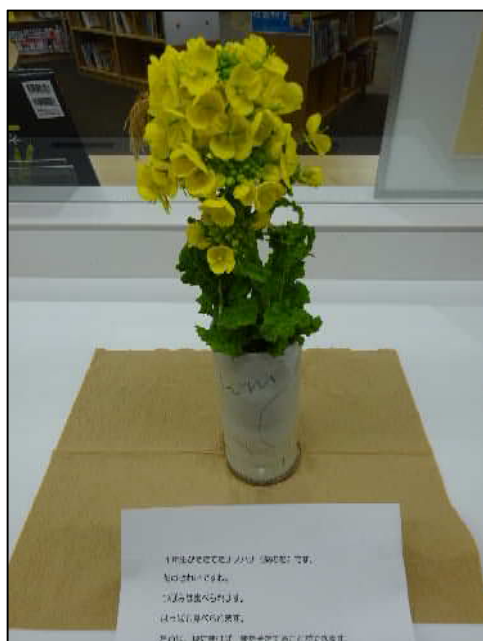
説明会に来校される入学予定者保護者にもご覧いただくのですが、今年はオンライン録画配信となり、これは残念でした。

今年は、雛飾りの周りや前に、「さわってはいけません」とか「ここから入ってはいけません」等の表示がありません。お道具類、とくに雛壇の下の方にある台子や箆笥を触ってみたいくなる子どもがいるかもしれないと、心配がなかったわけではありません。手に取ってよく見たいと思う子どもがいても不思議はないでしょう。しかし見ていると、子どもたちはお互いに声をかけあって、触らないようにしています。お内裏様・お雛様から最下段のお道具まで、今のところは無事です。そしてそのような子どもたちの様子にも、本校で育てる10の能力の一つ、自律力が育っているのを感じます。



春を感じて

寒い日が続きますが、1年生が種を播いた寒咲菜花は満開です。ネモフィラも、ヤグルマソウも、キンセンカも、早いものは蕾をつけ、もう咲きそうになっています。エンドウマメがツルを伸ばすスピードも速くなってきたようです。2階のテラスでは、1年生を迎えるために植えたチューリップが、春を待っています。正門脇のハナミズキの芽も、膨らんできています。そして、今週はいよいよ3年生が、農大稲花小の畑でノラボウナの収穫をします。寒くても、観察することはたくさんあります。自然の変化によく気づく子ども、自然の変化を楽しめる子どもになってほしいと思います。



雪の日

本校では原則として、朝6時前後に世田谷区(東京23区西部)に何らかの警報が出ていれば休校の措置を通り、メールでも保護者に連絡することになっています。しかし大切なのは、臨時休校等の措置の有無に限らず、居住地域の気象情報や交通情報、児童の理解力・体力等を十分に考慮し、「安全な通学」が可能かを保護者に判断していただくことです。その結果、遅刻したり、あるいは欠席となったりすることはやむを得ません。安全がまず大切だと考えているからです。また、始業後であっても状況によっては短縮授業になる可能性についても、あらかじめご理解をいただいています。

2月10日(木)は雪の日となりました。自宅で様子を見ることにしたご家庭もあり、それぞれが登下校について慎重に判断されたことがわかります。また、夕方にはさらに雪が降るとの予測から児童も教職員も安全な帰宅ができるように5時間目までの短縮授業とし、その旨を風過ぎには保護者にメール連絡をしました。その結果、ほぼすべての保護者から1時間以内に「平常より早い下校だが一人帰り可」「保護者による引き取りまで学校に留め置き」「アフタースクールを利用」のいずれかでお返事をいただくことができ、子どもたちは無事に下校していきました。

こんな時、普段からメールでの連絡を基本としている本校の強みを感じます。また、保護者の皆様の冷静な判断や対応にも助けられています。それぞれが家事や仕事に忙しい中にも関わらず、急な学校からの要請に快く応じてくださる保護者のご協力には感謝の気持ちしかありません。



夕方の風景(児童帰宅後)



翌日の風景

新型コロナウイルス感染症や雪などの気象災害などにおいては、子どもたちの安全を守りながら学びを止めないという難しい判断の連続となります。新型コロナウイルス感染症については学校医にもご指導をいただいて、様々な決定をしています。気象災害などについても情報をきちんと見極め、校長として最適な決定をするよう努めてまいります。

東京農業大学稲花小学校

校長 夏秋 啓子